

文豪・谷崎潤一郎の初期小説『お艶殺し』を現代に通じる恋物語に
SPAC 秋→春のシーズン 2023-2024 #2

『お艶の恋』

プレス関係各位

平素より、SPAC-静岡県舞台芸術センターに格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

SPAC では、「秋→春のシーズン」と題し毎年 10 月から 3 月にかけて、古今東西の名作を現代演出で連続上演しています。今年度は、現在上演中の川端康成『伊豆の踊子』（台本・演出：多田淳之介、映像監修：本広克行）に続いて、同じく大正時代に書かれた谷崎潤一郎の初期小説『お艶殺し』を舞台化します。今年9月、SCOTサマー・シーズン2023「桃太郎の会」*参加作品として、利賀山房にて上演。静岡芸術劇場では『お艶の恋』として、空間に合わせて美術や衣裳を変え、新しい演出も加えお届けします。

*鈴木忠志（富山県南砺市）、宮城聡（静岡県静岡市）、平田オリザ（兵庫県豊岡市）、中島諒人（鳥取県鳥取市）が、昨年設立した次世代の日本の演劇人と共同で作品を創造する会。

■ “お艶たちの魂” を呼び起こし、谷崎文学の新解釈を提示

裕福な質屋の一人娘・お艶と、奉公人・新助の駆け落ちの顛末を描いた、文豪・谷崎潤一郎の初期小説『お艶殺し』。SPACでは二度目の演出となる石神夏希は、前作の三島由紀夫『弱法師』に続き、俳優・スタッフたちとともに丹念に小説を読み解き、いまを生きる観客との結節点を探求。谷崎自身も作風が定まっていなかった頃の作品から、のちに耽美派として評価されるフェティシズムあふれる表現や生命力溢れる恋のエネルギーを抽出し、現代に通じる恋物語として描き出しました。谷崎小説の「語り」を通じて、お艶とその恋のために殺される人たちの魂が呼び起こされ、SPAC版『お艶の恋』の幕が上がります。

■ ベテラン俳優たちの技術と経験値が凝縮された「演劇」

小説を舞台として立ち上げるヒントになったのは、原作の「地の文」と、タイトルにもなっている「お艶」という女性の生き様。お艶の魂たちが「旅の一座」として『お艶の恋』の芝居を演じ始める、という二重構造にすることによって、原作のテキストのリズム感はそのままだに「演劇」として物語を再生成します。一座の＜座長＞でもあり、ストーリーテラーとなるのは、これまで数多くの作品で語りを担い、性別を問わず、時には人ならざるものまで演じ分けてきたベテラン俳優・阿部一徳。＜看板女優＞として「お艶」を演じるのは、一昨年度『桜の園』（演出：ダニエル・ジャンストー）ではラネーフスカヤ役、昨年度『人形の家』（演出：宮城聡）ではリンデ夫人役を演じ、新境地を見せた葉山陽代。彼女に翻弄される「新助」を一座の＜花形役者＞たきいみきが性別を超えて演じ、脇を固める＜優形＞大内米治、＜強面＞大道無門優也、＜踊り子＞baleとともに、石神演出の新解釈を具現化します。SPAC俳優の力量が存分に発揮される本作にぜひご期待ください。



お艶の恋 [新作]

演出：石神夏希 原作：谷崎潤一郎『お艶殺し』

出演：阿部一徳、大内米治、たきいみき、大道無門優也、葉山陽代、bale [五十音順]
上演時間：未定(90分以内) 日本語上演・英語字幕

■公演日：12月2日(土)、9日(土)、10日(日) 各日14:00 開演
■会場：静岡芸術劇場(グランシップ内)

＝ものがたり＝

熱帯雨林の奥深く、川の面を一艘の船がたゆたっている。
船の上では、かつて江戸の町で生きていた人々の魂が眠っている。
日本から地球の反対側まで、百年かけて旅してきたらしい。
オウムの語り出す声で、魂たちは目を覚ます。
そして百年前の出来事——『お艶の恋』の芝居を演じ始める。

演出家プロフィール 石神夏希(いしがみ・なつき)



劇作家。1999 年よりペピン結構設計を中心に活動。国内外で都市やコミュニティのオルタナティブなふるまいを上演する演劇やアートプロジェクトを手がける。近年の主な仕事に「東アジア文化都市 2019 豊島」舞台芸術部門事業ディレクターおよび『Oeshiki Project ツアーパフォーマンス《BEAT》』作演出、2019 台北芸術祭 ADAM Artist Lab ゲストキュレーター、静岡市まちは劇場『きょうの演劇』企画・ディレクター(2021 年度)他。SPAC では 2022 年に『弱法師』を演出。

©黒羽政志



SCOT サマー・シーズン 2023『お艶殺し』舞台写真/会場:利賀山房(提供:利賀文化会議)

チケット料金 (税込/全席指定) <好評販売中!>

一般: 4,200円

U25・学生割引:

[25歳以下および大学生・高校生] 2,000円

[高校生以下] 1,000円 *その他各種割引あり

チケットお取り扱い

SPACチケットセンター

電話予約 054-202-3399

窓口販売 静岡芸術劇場チケットカウンター

(電話・窓口の10:00~18:00, 休業日11/14~16を除く)

ウェブ予約 <https://spac.or.jp/ticket>

グランシップチケットセンターでも取り扱いあり

中高生鑑賞事業公演「SPACeSHIP!げきとも！」

SPACでは「劇場は世界を見る窓である」という理念のもと、平日には静岡県内の中学生・高校生を対象とした招待公演を行っています。『お艶の恋』では10校・1,722名の中高生が来場予定です。一般の方がお入りいただける日程もございます。詳細は公式サイトにて。/12月4日(月)~13日(水) 7公演

関連企画

●スペシャルトーク

「桃太郎の会」参加のアーティストが、利賀での「SCOTサマー・シーズン2023」および拠点各地での上演を経て静岡に集まり、トークを展開。

▷ 12月2日(土) 終演後 参加無料/予約不要

出演:

石神夏希、伊藤全記(『門』演出)

浜野まどか(『檜山節考』出演)、堀川炎(『窓の外の結婚式』演出)

司会: 成島洋子 (SPAC芸術局長)

主催・製作: SPAC-静岡県舞台芸術センター

ふじのくに芸術祭共催事業

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金

(舞台芸術等総合支援事業(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

[静岡一般公演に対し]

令和5年度日本博2.0事業(委託型)

主催: 公益財団法人利賀文化会議、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

共催: 公益財団法人静岡県舞台芸術センター

●プレートーク

一般公演日の開演25分前より、2Fカフェ・シンデレラにて。演出の石神夏希が自ら舞台をよりおもしろく観劇できるポイントをご紹介します。

●バックステージツアー

終演後にSPAC創作・技術部スタッフが舞台裏を解説。

▷ 12月9日(土) 所要時間: 約30分 参加無料/要予約 定員40名

●街歩き+座談会

開演前に静岡市の旧遊郭等を歩き、観劇後は、谷崎潤一郎研究者とともに「映画・演劇における近代の女性表象」について考えるツアー。

▷ 12月10日(日) 街歩き: 開演前10:00~11:30(予定)

→観劇・アーティストトーク→座談会(40分程度)

参加費: 1,000円/要予約 定員15名(先着順)

●はじめての谷崎潤一郎講座

SPAC文芸部の大岡淳が、ご観劇前に谷崎潤一郎作品の魅力をご紹介します。観劇が初めてでない方もご参加いただけます。

▷ 12月10日(日) 12:30~13:30

参加無料/要予約 定員30名(先着順)

●アーティストトーク

終演後にトークを開催。参加無料/予約不要

▷ 12月10日(日)

出演: 石神夏希(演出)、出演俳優

司会: 大岡淳 (SPAC文芸部)

●カフェ・シンデレラで逢いましょう!

終演後は、出演者が舞台衣裳でお見送りに登場します! 写真撮影など俳優との交流をお楽しみください。